

英語イマージョン授業を受けている生徒さんに聞いてみました!

Q1. アサンプション国際を選んだ理由は?

水谷さん: 英語が好きで語学力を上げたくて、アサンプション国際を志望しました。
 清永さん: 英語の勉強をしたかったので、自分から進んで入学しました。
 吉井さん: 帰国子女の私は、むしろ日本語の方が苦手なので、英語で学べるアサンプション国際を選びました。

Q2. 英語イマージョンの授業は大変ですか?

水谷さん: 専門用語が出てくる理科は、特に難しいと感じます。予習復習が、かかせません。
 清永さん: 中学時代は英語が苦手でしたが、今は復習もしっかりして、授業についていっています!
 吉井さん: 海外で生活していたので、今のところは授業についていけています。



みんな仲が良くて、毎日楽しいです!

Q3. 将来の夢はなんですか?

水谷さん: まだ決めていませんが、通訳など英語を活かせる仕事につきたいと思っています!
 清永さん: パイロットです!
 吉井さん: 海外で活躍できる音楽家です!

アサンプション国際が目指す 21世紀型教育

人間力を育てる教育。
 生徒達のイキイキとした表情が、成長の証です!

授業に集中している時、また友達や先生と過ごす休み時間、生徒達はとても明るく、朗らかです。英語イマージョン教育やPBL(課題解決型授業)によって、コミュニケーション力や考える力、創造力が養われた生徒達は、自分の未来に対して、大きな自信を持つことができます。それが素敵な「スマイル」を生んでいます。明るく・前向きな人間力を育み、未来を生き抜く力を養う、それこそがアサンプション国際が目指す教育です。



アサンプション国際
 小学校・中学校高等学校
 校長 丹澤 直己

アサンプション国際 中学校 高等学校
 Assumption Kokusai Junior & Senior High School

〒562-8543 大阪府箕面市如意谷1-13-23

TEL 072-721-3080

FAX 072-723-8880

https://www.assumption.ed.jp/jsh/



(スマホからHPへ)

交通アクセス Traffic access



Hello!

Assumption Kokusai

2019
 冬号

特集 special feature

英語イマージョン教育 × PBL(課題解決型授業)で育む

生き抜く力、豊かな心。



アサンプション国際中学校高等学校
 Assumption Kokusai Junior & Senior High School

特集 special feature

英語イマージョン教育 × PBL (課題解決型授業) で育む

生き抜く力、豊かな心。

アサンプション国際では「21世紀の社会で活躍できる人」を育てる教育として、「英語イマージョン教育」「PBL (課題解決型授業)」「ICT」の3つを組み合わせた「21世紀型教育」を導入しています。生徒達がいきいきと学び、どのように成長していくのか。中学校・高等学校それぞれの「英語イマージョン教育」×「PBL (課題解決型授業)」の実際の授業風景とともにご紹介いたします。

中学校 Junior High School

POINT 01

少人数クラスだから出来る、アットホームな授業。

英語イマージョンの授業は、ネイティブ教員が英語だけで授業を進めていきます。また従来の日本の授業のような、一方的に教科書の内容を淡々と話すのではなく、生徒たちと会話をするように、問いかけたり、様子を伺ったりと、常に生徒たちとのコミュニケーションを大事にした授業となっています。もちろん、生徒も原則、英語で会話や発表をすることになっています。中学校の、このクラスは12名。少人数だからこそ、教員の目が生徒一人ひとりに届きやすく、さらに生徒も教員に見守られている安心感があるため、とても明るく・和やかな雰囲気の中で、授業が進められます。

POINT 03

答えを導くプロセスを楽しめる授業に。

「答えのない問い」については、生徒同士でグループを作り、クラスメイトと一緒に解くことが奨励されています。これが、PBLを取り入れた英語イマージョン教育です。生徒がグループディスカッションをしている中、教員は各グループを見て回り、行き詰まっているところがあれば、ヒントを与えます。正解を出したグループからは、歓声が上がったり、周りは拍手をしたりと、教員は、英語で会話をしながら、答えを導くプロセスそのものが楽しくなるような場作りを心がけています。

POINT 02

教員は常に2名体制。

英語イマージョン教育では、ネイティブ教員とは別に、日本人教員が常に授業に立ち会い、フォローしています。

POINT 01

ハイレベルな高校の授業。

高等学校の英語イマージョン教育は、さらにハイレベルなものになります。特に理科などの専門用語の多い教科は、英語だけでなく、日本語の名称や単語を覚えなければなりません。授業内容は日本語での理解も求められます。例えば、ネイティブ教員が「この名称は何ですか?」と英語で生徒に尋ねた場合、生徒達は、英語の名称と日本語の名称の両方を、声に出して答えます。これを繰り返すことで、日本語と英語の両方で、しっかりと理解と記憶ができるようになります。

高等学校 Senior High School

POINT 02

ICT機器(タブレット)を有効活用!

教員は、タブレット端末に入れた情報をプロジェクターで投影し、テンポよく課題や質問を投げ掛けていきます。生徒も各自端末を持って授業を受け、調べものなどや配布資料の閲覧などでも活用しています。

POINT 03

ネイティブの教員が、英語の教材を作成!

インターナショナルスクールのレベルに近い英語の授業を受けながら、高校卒業資格が取得できるのが、アサンプション国際の特長です。学習指導要領に定められた基準を満たす英語の教科書が市販されていない場合は、ネイティブ教員がオリジナルで教科書を作成します。作成にあたっては、日本人教員が監修を務めています。

Teacher's Voice

What is important while teaching in English immersion class?

英語イマージョン授業を行う上で、気を付けているポイントはなんですか?

I try to use simple language, so the students can understand. And also useful language that they need to use because if you can explain your ideas, you understand the ideas. At the beginning of the lesson, I write down keywords on the board, and they can check them on the book that has a list like dictionary. And also, when they explain, I try to make them use correct words.

生徒が理解できるような言葉遣いを心がけています。授業を始める際に、ホワイトボードにキーワードを書き留め、生徒が説明する際に、それを見ながら、正しい言葉を使えるように、工夫しています。

Luke Vernazza先生
担当: 数学

The important point is that they understand what has been taught and that they develop their language skills. The junior high school students absorb language faster and easier than the senior high school students, and they are not shy to participate and speak in the classes. The senior high school students seem to struggle with studying science in English because understanding the materials is also challenging. So, I often try to encourage them to ask questions they don't understand and answer the question.

大事なことは、教えられたことを理解した上で、語学力を伸ばすことです。中学生は、高校生よりも容易に英語に馴染んでくれますが、高校生は、授業内容を理解することだけでも難しいため、苦労しているようです。ですから、こちらから質問を投げかけることで、答えを導きだせるように指導しています。

Ryan O'Brien先生
担当: 理科